

♪安浦町で一緒にHAPPYに♪

地域おこし協力隊 鈴木淑子



あっという間の3年間。地域おこし協力隊として活動する中で、安浦町の皆さんと出会い、たくさんの挑戦をさせていただきました。最初は「何ができるんだろう？」と不安もありましたが、温かく迎えてくれた皆さんのおかげで、ワクワクする毎日を過ごせました。本当にありがとうございました。

SUP (スタンドアップパドルボード)

「海がもっと身近になったらいいな」そんな思いで、SUPを通じて安浦の海の魅力を伝えてきました。少しずつSUPを楽しむ人が増え、地域の新たなアクティビティとして広がってきたのを感じています。

パーソナルカラー診断

「似合う色を知るだけで、自信がつく。」そんな体験を地域の皆さんと一緒にしました。小学校や子育て支援センターでも、子どもたちや親御さんに「人と違ってみんな良い！」ということを伝えながら、未来の安浦の姿を感じることができました。

oluoluFASHION

服の交換会を通じてサスティナブルな暮らしを提案しました。「着なくなった服が、誰かのお気に入りになるって素敵」そんな喜びを共有できたのが嬉しかったです。

第3回 Yasuura Cup SUP Fishing & Sprint Race

そして、2025年3月2日(日)には「第3回 Yasuura Cup SUP Fishing & Sprint Race」を開催します！なんと世界で活躍する選手も参加予定で、今や呉市内外から注目されるイベントに。これからも安浦の海を盛り上げていきますよ～。

初めてのことばかりで試行錯誤の連続でしたが、地域の皆さんの温かさに支えられ、いろんなことに挑戦できました。「やってみんさい！」と背中を押してくれた皆さんのおかげで、有意義な3年間を過ごせました。出会えたことが私の宝物です！

これからも安浦で暮らしながら、SUPやヨガなどサスティナブルな活動を続けていきます。イベントや町で見かけたら、ぜひ声をかけてくださいね。

3年間ありがとうございました。地域おこし協力隊は卒業しますが、これからもよろしくお願いたします！



TANTO

No.62
発行
令和7年3月10日

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261 (年4回発行)

安浦と香川の結びつきを再確認

「高松市石の民俗資料館友の会」視察団安浦へ

塩田開発で安浦の礎を築いた木村仁平氏、安浦駅北に残る石像は牟礼町石工 和泉末夫氏作。高級な「庵治石」の産地香川県高松市牟礼町にある「高松市石の民俗資料館」へ調査を依頼。その縁で「友の会」26名が昨年11月13日に来町され石像とコンクリート船武智丸を視察、まち協が対応しました。高松出身の木村・和泉両氏について新たな事実も判明し、石像は安浦・香川を繋ぐ「絆」だと認識した有意義な交流になりました。



内海寿会、草刈りボランティアしてます♪

安浦町内に20年くらい前から草刈りを続けているグループがあります。グループ名は、内海寿会(代表岩本利信さん)、現在12人のメンバーがいます。活動は毎月第一火曜日の早朝。場所は社協(旧はな)、市民センターの石碑前、安浦駅の線路沿い、郵便局の前の公園などなど。

作業後は地元の有志が作ってくれたお弁当を食べるのを楽しんでいましたが、集まる場所がなくなり、お弁当は持ち帰りです。それでも月に1度みんなが集まり作業するのが楽しみと言われます。年齢は75歳から80歳過ぎまで、いつまでやれるかと言いながら続けていますが、若い人たちにぜひ参加してほしいとの声もあります。

安全のためにお揃いの上着を着て作業していますが、みんなボランティアです。日頃何気なく通る場所が清々しいのは、こういう活動のおかげですね。

町内の皆さん、この草刈り作業の皆さんに会った時は、「ありがとう」の言葉をかけてくださいね♡



「鯉のぼり」を寄付してください

西日本豪雨災害を受けて、「みんな元気をだして」という願いを込めて、安登地区豆ナ茶屋店舗横に鯉のぼりをあげています。家庭で使用しなくなった鯉のぼりがございましたら寄付をお願いします。安浦町まちづくり協議会までご連絡ください。 ☎0823-84-2261



やすうら 記憶遺産

第35話

名曲の響

連載「やすうら記憶遺産」とは？

安浦町の風物を描き残した画家・山本譲(1904-1994)の400枚にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取り組みです。
まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016(平成28)年No.28/9月号から連載を始め、今回で35回目のお話となります。



月夜の美しい夜、少年たちとこの家の娘さんたちが楽しそうに笛を吹いたり歌ったりしている光景です。大正初期頃、山本譲が高等小学校2年の時の思い出です。岡田家別荘であるお屋敷は近在でも目立つ立派な作りで、どのような家の事情かわかりませんが山本少年のほか3人の少年たちが毎晩「とまりこ(と通称した宿直員)」としてお屋敷に泊まる当番をしたそう。当番と言っても、彼らは11歳前後の子どもです。月に照らされた美しい庭園で、お屋敷の娘さんや年上のお嬢さんたちと歌ったり、この頃流行した明笛(みんてき)という笛で「荒城の月」、《美しき天然》を好んで吹いた。やさしく特別綺麗なお嬢さんが玄関の框(かまち)にもたれかかって吾が吹く名曲に耳を傾けていた」と山本譲自身が絵のうらに記しています。
明笛とは、中国から伝わった笛で、吹き口と指孔との間にもう一つ孔があいているのが特徴で、ここに竹の薄皮(竹紙)を貼って吹くと、篠笛とは異なる独特の音が出るそうで明治期に全国的に大流行したそう。名曲と記された《荒城の月》は土井晩翠作詩、滝廉太郎の作曲により1901(明治34)年に発表された楽曲。《美しき天然》は佐世保鎮守府の軍楽長だった田中穂積が教材用に1902(明治35)年に完成させた日本初のワルツを取り入れた楽曲と言われています。
鄙びた地方にも日々を楽しむ音楽が生活の中に入っていた大正の時代。大正デモクラシーの時代でした。山本少年と日本がたどるその後の歴史を考えると、音楽を楽しむ自由とは、どの時代にあっても大切な時間ですね。

① 爺ちゃん、ゲストティーチャーで頑張る!

安登の「@爺ちゃん」こと町田攻さんは、安登小学校の総合学習でゲストティーチャーをしています。

「安浦町史」、「安浦の民話」をもとに、まずは教室で授業で行い、次に現地で安芸津から川尻に至る江戸時代の「浦辺街道」・三荷峠(塞ノ神・千人塚・里程松) 善兵衛山(テレビ塔)中腹の「馬洗池」・7つの河(井戸)などを訪ねます。子どもたちは昔の人々に思いを馳せ、地域の歴史を伝える看板を作ることにしました。町田さんは地権者に承諾を得るなど、子どもたちの活動をサポートしました。子どもたちは、散策をするときごみの収集もし、SDGsにも関心を持ちました。

年度末に総合学習のまとめとして、これからのまちづくりについて「安登の幸福論」というテーマでプレゼンをし、地域の人々にも伝えました。

地域の歴史を知り、これからのまちづくりを自分たちで考える素晴らしい取り組みです。町田さん、これからも続けてくださいね。



教室で授業



浦辺街道



善兵衛山案内板



馬洗池

やすうら再発見 散策のすすめ

◆ 里程地蔵を辿って野路山登山道を歩こう ～里程地蔵 三本松公園 野路山伊音城八十八ヶ所～

中切の「野呂登山口」バス停から国道を内海方面に下って、旧道に入って100m位の所に「宝暦十四年申三月 右者伊音城道 庄屋矢田部勘助」と銘のあるお地蔵様が置かれています。旧記によれば、「野路山弘法大師はヨリ四十五丁」と刻まれた燈籠もあったとのこと。また、新谷家前には、「右北伊音城道コレヨリ三十六丁 左へ内海跡道」と刻まれていたお地蔵様が置かれていました。

このように野路山伊音城弘法寺まで約1丁(109m)ごとに参拝者の道標としてお地蔵様が置かれています(里程地蔵)。一部お地蔵様は不明ですが、多くは残っています。なお、登山道は中国自然歩道の一部でもあります。

川沿いにさかのぼっていくと三本松公園に到着します。かつては、三本の黒松の大木がありましたが、昭和57年にすべての松が枯れてしまいました。現在は、参拝者の休息の場所となるように「いろは池」・桜並木など公園一帯を地元の中切地区のひとたちが整備しています。春には桜が公園一面に咲き誇り、桜の名所になっています。

また、呉市有形文化財「野路山伊音城弘法寺岩屋八十八ヶ所」の最初の札所でもあります。伊音城弘法寺までには9カ所の札所があり、里程地蔵と一緒に八十八体のお地蔵様が置かれています。途中には「馬の背展望台」「仁王門」など見所がたくさんあります。急な坂道が続くコースですが、ゆっくり歩いてみてはいかがでしょうか。



矢田部勘助寄進の地蔵 宝暦14年



薬師堂 三本松札所(1～10番)



いろは池



桜並木



理学療法士が本気で伝えたい



理学療法士 住田 由布

「自分の身体を守る」ということ

2024年より「コミュニティサロン繋ぐ」として、子どもから高齢者まで心も体も地域も元気にすることを目指して、様々な活動をしてきました。主に安浦町のヒト・モノ・コトを町内外の人に知ってもらい、地域を元気にするため「繋ぐマルシェ」というイベントを開催し、たくさんの方に来ていただいています。

本業は「理学療法士」という、病気やケガをした方の生活再建のサポートを行うリハビリの仕事をしています。理学療法士として2024年6月より新たに始めた活動が健康講座です。地域の高齢者サロンなど集いの場で「脳血管障害について」や「ケガをしない体づくり」など『予防』の話を中心に、いろいろな団体様からご依頼をいただき月に2回程度の講座をしています。また、定期的に「いきいき百歳体操」の指導や体力測定もさせていただいています。

私は主にケガや病気をした方の「起きる」「立つ」「歩く」などのリハビリに携わってきました。思い描いていた人生が180度変わり苦しい思いをした当事者とその家族をたくさん見てきた中で、こういう苦しみを味わう人を減らしたいと思うようになりました。

私が理学療法士として見てきた世界、実際どういことが起きていてどれだけ辛くてどうすれば防ぐことができるのか、楽しく元気に過ごす方法をできるだけたくさんの方に伝えていきたいと思いこの活動をしています。

講座を受けられた方からは「知らなかったから聞いてよかった」「こういう時はどうしたらいいの?」「家ではどんな運動をしたらいいの?」など様々な質問や意見が飛び交い、にぎやかに情報交換ができています。

これからも高齢者サロン、自治会、老人会など集いの場で一人でも多くの方にお伝えしていきたいと思っていますので、お気軽にご連絡いただければと思います。



@TSUNAGU_COMMUNITYSALON



LINE

コミュニティサロン繋ぐ
◀各種SNSはこちら▶

